

「稲城市医療計画」あるべき医療提供体制の実現に向けた取組状況について（令和3年度）

I. 高度急性期・急性期入院の機能分化連携初期救急の充実

今後の課題方向性	取組み状況		
	具体的な取組施策	令和3年度 具体的に目標とする取組等	令和3年度 結果(進捗状況)
<p>●入院（高度急性期）</p> <ul style="list-style-type: none"> 市外の高度急性期病院の機能を活かした連携体制の推進 市内の医療体制を踏まえ、現状を維持 <p>●入院（急性期）</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内急性期病院を中心に、疾病に応じた必要な体制の整備、市外の医療機関との連携 市の疾病に応じた必要な病床の確保、及び必要病床数を踏まえた機能の充実 市内の医療機関と稲城市消防(救急救命士等)と更なる連携強化 <p>●通院</p> <ul style="list-style-type: none"> 住民の適切な受療行動の実現、市内のかかりつけ医の広がり 休日夜間の機能分担による通院の繁忙の抑制、在宅医療供給の創出 	<ul style="list-style-type: none"> 稲城市の地域特性を踏まえ、市外の高度急性期医療機関への搬送体制の連携及び維持 市の疾病に応じた必要な医療の提供、及び病床の確保、また、回復期病床を有する医療機関等との連携強化 初期医療、2次医療及び3次医療の役割分担の中で、かかりつけ医を持つことを推進 病院機能に応じた搬送体制の連携及び維持 #7119の市民への啓発普及 	<ul style="list-style-type: none"> コロナの状況下にて、できる限りの受け入れ対応を行う。 国保データ等を用いた分析を行い稲城市医療計画の改定を進める。 母子保健及び健康増進事業実施時に、適正受診に関するチラシを配布する等、啓発を実施する。 地域医療の現状を把握するため、医師会との情報交換を引き続き実施する。 病院機能に応じた搬送体制の連携及び維持、#7119の市民への啓発普及について稲城市消防本部と情報交換する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域のクリニックからの紹介患者を受け入れる際には、発熱者であればコロナであるのか、そうでないのかの区別がつかないため、コロナである前提で受け入れる必要があり、場所の制限(一般の患者とは違う場所で受け入れる)や、医師の準備等が必要になる。そのような状態の中、救急第5診察室の陰圧化工事や、コロナ病棟でも陰圧室を4室設置するなど、紹介患者を受け入れることができる環境整備を行った。 令和2年4月から令和3年6月までに稲城市医療計画の改定を行った。 適正受診に関するリーフレットを3歳児健診時に配布した。 医師会との情報交換を図り、地域医療の状況把握に努めた。 稲城市消防本部において、近隣の救急医療機関との情報交換を行い、搬送体制の連携は維持されている。また、東京都ドクターヘリとの連携開始により、搬送体制が拡充された。 稲城市消防本部において、#7119について、市ホームページ、広報いなぎ、市公式Twitterへ掲載しているほか、救命講習において周知を図っている。

II. 回復期病床の確保・充実

今後の課題方向性	取組み状況		
	具体的な取組施策	令和3年度 具体的に目標とする取組等	令和3年度 結果(進捗状況)
<p>●入院（回復期）</p> <ul style="list-style-type: none"> 回復期から市内在宅へ連携強化のための市内回復期の充実 必要病床数を踏まえた回復期病床への転換、増床の実現 <p>●入院（慢性期）</p> <ul style="list-style-type: none"> 在宅医療の不足による慢性期入院の防止 円滑な在宅移行体制の実現 回復期病床への機能転換の実現 	<ul style="list-style-type: none"> 在宅医療を担う市内の医療機関の後方支援の推進 市内病院の回復期病床への転換に向けての本計画内容の共有 療養病床を有する有床診療所の開設支援等 ACPの普及、啓発 	<ul style="list-style-type: none"> 市外を含め、市民に在宅医療を提供する主要な医療機関や医師等を紹介するパンフレット作成に向けた情報収集 ACPIに関する勉強会等の開催 市内病院と情報共有を図る。 稲城市医療計画を市ホームページ等に掲載し、市内に必要な病床の周知を図り、開設希望があった際には支援に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民に在宅医療を提供する主要な医療機関や医師等を紹介するパンフレット作成に向け、市内4か所、市外7ヶ所の計11か所の医療機関を訪問し情報収集した。 7月29日に専門職向け勉強会「訪問診療におけるACPの取り組み」、2月27日に市民向けオンライン講座「人生100年 50代からの老い支度～老親と自分・配偶者の認知症対応戦略～」を開催した。 稲城市在宅医療介護連携推進協議会にて、情報共有を図った。 改定後の稲城市医療計画を市ホームページに掲載した。 令和3年10月に南山リハビリテーション病院が開設され、回復期病床が104床増えた。

III. 診療科の充実(外来)

今後の課題方向性	取組み状況		
	具体的な取組施策	令和3年度 具体的に目標とする取組等	令和3年度 結果(進捗状況)
<ul style="list-style-type: none"> 産婦人科の充実 整形外科の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 周産期医療における機能の充実 整形外科の充実 	<ul style="list-style-type: none"> コロナの状況下にて産婦人科で、できる限りの対応を行う。 稲城市医療計画を市ホームページ等に掲載し、市内で充実が望まれる診療科を周知する。 引き続き、市街地整備課と医療機関誘致も含めた街づくりの検討等について、機会を捉えて随時協議をする。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナの状況下にて産婦人科では、以下の分娩方針とした。 1.感染制御の観点から、計画分娩を勧めることがある。 2.入院日があらかじめ決まる場合、入院の2,3日前にPCR検査を実施。予定入院前に陣痛が始まった場合は入院時に緊急PCR検査を行う。感染を疑う症状や、家族が感染している場合は随時検査を行う。 3.本人が陽性及び濃厚接触者の場合、隔離期間中に破水・陣痛が来たら帝王切開。帝王切開が間に合わない状況では、陰圧換気可能な手術室で経陰分娩を行うことがある。 耳鼻咽喉科、整形外科及び脳神経外科が平尾地区に開業された。

IV. 在宅医療の充実

今後の課題方向性	取組み状況		
	具体的な取組施策	令和3年度 具体的に目標とする取組等	令和3年度 結果(進捗状況)
<ul style="list-style-type: none"> 在宅療養後方支援の機能強化 在宅医療に関する市民への普及啓発 市内・市外の在宅医による在宅医療の実現 在宅医療における機能分化・連携体制の実現 訪問看護事業所の支援 	<ul style="list-style-type: none"> 稲城市在宅医療・介護連携推進協議会の開催 稲城市在宅医療介護連携マップの更新 いなぎ在宅医療・介護相談室による相談対応 在宅医療を紹介するパンフレットの作成を通じた連携の推進 多職種連携研修、専門職研修の実施 市民向け講演会やシンポジウムの実施 市在宅医療支援病床確保事業の継続 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な施策に記載された内容は全て実施する。 いなぎ在宅医療・介護相談室による相談内容を分析し、在宅医療の後方支援策や機能分化・連携体制の実現に向けた課題を抽出する。 在宅医療を紹介するパンフレットの作成を通じ、連携を推進する。 多職種連携研修、専門職研修や市民向け講演会を開催し、市民への普及啓発を進める。 在宅医へのコロナ対策としての支援を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な施策に記載された内容は全て実施した。 11か所の訪問診療所の訪問により専門性の違いを把握するとともに、相談室による相談内容から訪問診療に求められている機能を整理した。 多職種連携研修「退院時及び災害時における多職種連携の在り方を考える」、専門職研修「訪問診療におけるACPの取り組み」「稲城市における災害医療体制(震災を中心に)」、市民向けシンポジウム「高齢の親の衰えに備える」、家族向け講座「在宅医療について」を開催した。 市内在宅医へ市から防護服を渡した。

V. 認知症への対応

今後の課題方向性	取組み状況		
	具体的な取組施策	令和3年度 具体的に目標とする取組等	令和3年度 結果(進捗状況)
<ul style="list-style-type: none"> 認知症の予防の推進 認知症専門医やサポート医の充実 認知症疾患医療センターとの連携 認知症に対する相談機能の充実 認知症に関する関係機関の連携による本人・家族への支援 	<ul style="list-style-type: none"> 認知症支援コーディネーターによる相談支援の継続 認知症予防教室の継続 認知症疾患医療センターの開催 認知症初期集中支援チームによる訪問支援 認知症疾患医療センターとの連携 認知症ケアパスの更新と活用 若年性認知症センターとの連携 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な施策に記載された内容は全て実施する。 認知症疾患医療センターと連携した軽度認知症高齢者の受け皿作りの推進(交流の場での勉強会の試行) 軽度認知症の人の生活に役立つ知恵の収集 認知症初期集中支援チームの活用の推進 認知症認定看護師等の育成を支援するため、現在は自費となっている学費等の補助制度を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な施策に記載された内容は全て実施した。 認知症疾患医療センターの協力のもと、交流の場で計10回の市民向け勉強会を開催した。 軽度認知症の人の生活に役立つ知恵を先行する冊子やホームページ、認知症カフェの参加者等に確認し収集した。 認知症初期集中支援チームが活用されるようケアマネ向けに説明会を開催した。 若年性認知症総合支援センターを地域ケア会議に呼び、課題等を議論した。 認知症認定看護師等の学費等を補助するため、補助要綱を作成し、令和4年度予算に補助金を計上した。

VI. 地域医療連携機能の強化

今後の課題方向性	取組み状況		
	具体的な取組施策	令和3年度 具体的に目標とする取組等	令和3年度 結果(進捗状況)
<ul style="list-style-type: none"> 病診連携及び在宅医療介護連携の推進 稲城市在宅医療・介護連携支援センター(いなぎ在宅医療・介護相談室)の活用 在宅医の支援と市外の在宅医との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 稲城市在宅医療・介護連携推進協議会の開催 稲城市在宅医療介護連携マップの更新 いなぎ在宅医療・介護相談室による相談対応 在宅医療を紹介するパンフレットの作成を通じた連携の推進 多職種連携研修、専門職研修の実施 市民向け講演会やシンポジウムの実施 市内回復期病院から市内在宅医への連携支援 市外急性期病院から市内回復期病院への連携支援 療養病床へ入院している市民の退院後の在宅医療及び在宅介護の支援 	<ul style="list-style-type: none"> 市内回復期病院から市内在宅医への連携支援 市外急性期病院から市内回復期病院への連携支援 	<ul style="list-style-type: none"> 市民に在宅医療を提供する主要な医療機関や医師等を紹介するパンフレット作成に向け、市内4か所、市外7ヶ所の計11か所の医療機関を訪問し情報収集した。